

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175000520		
法人名	法人種別:医療法人	法人名:医療法人社団北星会	
事業所名	医療法人社団北星会 グループホーム ふあみりあ 5F		
所在地	北海道北見市北3条西3丁目13番地 アスタービル3F・4F・5F		
自己評価作成日	平成29年6月1日	評価結果市町村受理日	平成29年7月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・毎食の食事作りを入居者で行っている。その食事の買い物も入居者と行き、カートを押してもらったり食材を選んでもらったりしている。
- ・近所の商店、美容院を利用し地域と交流している。
- ・ホーム所有の車両が二台ある。季節によって観光地へ遠出をしている。上湧別チューリップ公園、東藻琴芝桜公園、野付牛公園紅葉等見物等行っている。また、洋服屋さん等の施設で入居者自ら自分の服を選んで購入したりしている。
- ・日勤者は4名、夜勤者は2名確保している。
- ・月に1~2度出前を取っている。
- ・入居者それぞれの誕生日パーティーを開き、手作りケーキとスタッフ全員からのメッセージを書いた色紙を贈っている。また、クリスマスパーティーの時は、それぞれにプレゼントを贈っている。
- ・入居者の「自分史」を作成している。
- ・スタッフはあえて名札やエプロン等をせず、入居者とスタッフで差別化をせずに家庭的な雰囲気をつくっている。
- ・外食にもよく出かけレストラン、回転寿司、喫茶店、蕎麦屋など時には入居者スタッフ全員でお昼にカップ麺やおにぎりを食べる

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL hlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0175000520-008

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	平成29年7月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所は地域密着型のサービスの意義を踏まえ、独自の理念である「ゆっくり、ゆったり、ゆるやかに」をすべてのスタッフが周知、理解を共有して実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は町内会に参加している。入居者が地域の一員として暮らし続けるように日常的に交流できるようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	回覧板に通信(目隠し)を掲載し、一緒に回覧板を置きに行ったり、町内にある商店街に散歩に行き、会話をしたりと地域の人々に向けて活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は二ヶ月に一回開催している。入居者の代表、入居者の家族、各ユニット長、外部の知見者にも出席してもらっている。そこで意見交換、評価をしてもらい、サービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の実情やケアサービスの取り組みには地域包括支援センターや市役所の介護福祉課と密に連絡を取っている。協力関係を築くよう積極的に取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」	禁止の対象となる具体的な行為の書いてある紙を玄関に貼っている。身体拘束については定期的にミーティングで話しあっており、「どこ行くの」「ダメ」等のNGワードを作成する等、様々な場面で身体拘束のないケアをスタッフ		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月行っているミーティングにて、管理者・職員は高齢者虐待等についての社内研修を行い、職員同士話し合ったり、虐待を見過ごさないよう防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、研修会・講習会へ参加し、個々の必要性について話し合いを持ち活用できるよう、支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者や家族に説明をする際に、十分に時間を取り、不安や疑問点がないか何度も確かめ細かく確認をし、文章でもお知らせを行って契約の締結、解約又は改定等の理解、納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族の意見や要望があった場合、ユニット長、管理者へすぐ報告しミーティングや連絡ノートに記入し、全員が把握している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必ずミーティング、ユニット長会議があり、スタッフの意見交換や提案、社内研修などを行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員各自の努力や実績、勤務状況を把握し、職場環境・条件の整備に努め資格取得や勤務年数、能力に応じた賃金アップやパートから準社員、正社員への昇格などを行い、やりがいや向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は社内研修や講演会、研修会などの参加を促し参加をしている。また、職員が入居者に対し『だめ』『どこ行くの?』等NGワードを設置し、発言した職員はペナルティを決め、新人介護スタッフ育成計画書にも掲載をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道認知症グループホーム協会オホーツクブロックに所属しており、同業者とのネットワーク作りや研修会、講習会を通して交流がありサービスの質を向上させていく、取り組みに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談の段階で関係作りに努め、開始時には本人が困っている事、不安な事、要望等に耳を傾けている。入居日は面談時の職員がいる等安心確保の為関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族などが困っている事・不安な事・要望等に耳を傾け、安心してサービスを利用していただけよう、まめに、会話を重ねて、いい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を導入する段階で要望をお聞きし、必要としている支援を見極め、他のサービスも含め、会話を重ねたり、経験により行動するなど、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事を見極め、出来る事はして頂き、介護される一方の立場に置かず、スタッフが本人に頼る事がある毎日であり、暮らしを共にする関係になっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は共に本人を支えていく為、まめに話し合い密に連絡をとり共に本人を支えている。本人と家族の絆を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にしている家族や場所との関係が継続できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは入居者同士の関係を把握している。入居者同士がコミュニケーションがとれ、支え合えるように支援し、一人一人が孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	スタッフは、サービス利用が終了してもこれまでの関係を大切にしている。お見舞い、面会など必要に応じて本人、家族の経過をフォローし相談、支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の個々の思いや暮らし方の希望を把握し、スタッフ一体となり努めている。困難な場合は本人の意向を検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	スタッフは本人の今までの生活や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等を家族や本人に聞いて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月に一度のスタッフミーティングで入居者の現状を把握している。また、毎日の申し送り、個人日誌の記録、連絡ノートの記入等をし、一人一人の暮らし方、心身状態の変化等スタッフに周知徹底している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、関係者と話し合い意見やアイデアを出し、本人がより良い暮らしが出来るよう、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ間で情報を共有し入居者の日々の様子やケアの実践、結果や気づき等の内容や会話を個人日誌に日勤、夜勤帯でそれぞれ毎日記入し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフはその時々生まれるニーズには既存のサービスに捉われない対応や柔軟な支援に取り組んでいる。入居者には時間を制限することなく安定した暮らしを送っていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	週に何度か通う馴染みの店もあり、お散歩がてらウィンドウショッピングも楽しんでいる。また、地域のお祭りの参加や近所の商店、美容室、喫茶店等の利用して市民との交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切にし、納得した医療機関を受診している。適切な医療が受けられるよう支援しており、通院時には家族への報告もしている。スタッフ対応時は経過など家族へ連絡している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは入居者が一人一人適切な受診や看護を受けられるよう支援している。日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを訪問看護師や職場内の看護師などに相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、出来るだけ早期に退院できるよう医療機関と連携を取り、情報交換に努めて、家族とも連携をとっている。入居者が安心して治療が出来るよう支援している。そうした場合に備えて病院関係者との関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合や終末期のありかたについてミーティング時やスタッフ間で意見を出し合い話し合いを持っている。家族、かかりつけ医とも相談してどのように安楽に過ごせるか、チームで取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時のマニュアルを作成しており、いつでもすぐに見られるようにしている。スタッフは全員、消防署の普通救命講習をうけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成して、入居者が避難できるようにしている。半年ごとに職員全員で消防訓練を行い避難の方法を全職員が再確認している。地域との連帯、協力体制も築いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフは入居者の人格を尊重し、プライバシー事項は、入居者の耳元や居室で行い、個人情報取り扱いには家族から同意書ももらっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者本人が日常生活のなかで、なるべく自分で意思決定できるよう支援し、声掛けする時は質問型で自己決定できるように働きかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人のペースを大切に、希望や要望がある場合はそれに添えるよう支援している。スタッフの都合は優先しないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の洋服を一緒に買いに行き本人に選んでもらっている。スタッフと近所の美容室に行ったり、時々化粧をしたり本人の好きなおしゃれができるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「今日のご飯は何？」と聞く入居者もいる。必ず、準備から片付けまで一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者それぞれの食事量、水分量のチェックをし状態に応じて食事の形態を変えたり、献立は同じ食材が重ならないよう栄養バランスの取れた献立を心掛け栄養士のチェック、指導を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは起床時、毎食後、寝る前と、入居者それぞれの力に応じて声掛け・誘導・促がし・介助を行っていて、それぞれ温度板に記入している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心を尊重しながら排泄パターンを把握し、声掛けの工夫や一人一人に合った排泄支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝体操を行い、散歩も促がしている。水分も1日1600mmを目標に毎回の水分を記録している。食物繊維や乳製品の摂取を心掛け、また、主治医の指導のもと、便秘薬服用の入居者もいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	拒否がある時は時間を変え様子を見ると、拒否なく入られたり入りたいと希望があった時は配慮して入って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者が安心して休息、安眠できるように、それぞれの生活習慣等に応じて支援、声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、用法、用量については薬剤情報ファイルをもとにスタッフ全員が理解をし、薬や本人の状態に変化があれば、その都度連絡ノートに記入しスタッフが全員が把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物、看板出し、朝のゴミ出し、花の水やり、茶碗洗い等、入居者それぞれの力が活かせるよう支援している。日光表を作り、散歩等毎日一回外出して気分転換を促がしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフと週二回の食材買い物や散歩に出かけている。回転寿司、蕎麦屋、ファミレス等にも行っている。他に季節ごとの花見や紅葉の時期には遠出のドライブにも出掛けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来ない方でも家族や本人と話し合い、ほしい物がある時はスタッフと一緒に買い物に行き、好きな物を買ったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者より電話の希望があればいつでも掛けられるよう支援し、電話の出来ない入居者はスタッフが掛けたり等、家族や大切な人との繋がりの支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床はバリアフリーで段差なく安全に歩行できるようにしている。日中は居間に入居者が集まり、居心地よく、くつろいでいる。スタッフは室温や湿度にも気をつけており、季節にあった飾りつけもしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルでは読書や塗り絵をしたり居間のソファーでは仲の良い入居者同士がおしゃべりをしたりテレビを見ている。キッチン横には一人になれるイスがあり、気持ちが落ち着けるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族と相談し、自宅で使い慣れたイス、筆筒等を置いている。なじみの写真、花、飾り物を置いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつできるだけ自立した生活が送れるようにしている。廊下、トイレ、浴室に手すりがあり、本人の出来ることを活かしている。居室、風呂場、トイレには表札を掛けて分かりやすくしている。		